

令和3年度第3回  
高知県医療審議会 医療従事者確保推進部会 審議概要

日 時：令和4年2月18日（金）18時30分～20時15分

開催形式：オンライン開催

出席：委員11名（野並部会長、藤原副会長、小野委員、倉本委員、先山委員、佐野委員、執印委員、野嶋委員、野村委員、深田委員、脇口委員）  
代理出席1名（近森院長（川井委員の代理出席））

## 1 開会

## 2 協議事項

(1) 医師養成奨学貸付金受給医師の令和4年度配置計画について

資料1により事務局から説明

脇口委員：ハブ病院から医師派遣の取り組みについての進捗状況は。

事務局：12月の奨学金制度運営会議において、医局や関係医療機関と考え方を共有したが具体的な取り組みには至っていない。今後、地域医療支援センターとも協議のうえ取り組みを進めたい。

脇口委員：この取り組みは県が中心となって進めるべきではないか。

※ 協議事項(1)については承認された

(2) 医師養成奨学貸付金制度の改正について

資料2により事務局から説明

近森院長：高知県内では先進医療を学べる場が高知市南国市に集中している。若手で先進医療を学びたい意欲のある方に郡部での勤務を課すことは県全体の医療を考えると矛盾しているのでは。

事務局：地域枠制度の中でのことが前提。一方で若手医師の専門医志向、地域医療と親和性のある診療科の医師をどう確保していくか検討していきたい。

※ 協議事項(2)については承認された

(3) 医師確保計画の進捗・評価について

資料3により事務局から説明

近森院長：高知県では命に関わりのある循環器内科や外科など必要とされている診療科に進む医師が少ない。大学も頑張っているが、県としてもそういった診療科の医師を増やす方策は考えていないのか。

事務局：令和3年度から外科を奨学金の特定科目加算に追加するなど個別の取り組みを進めている。

執印委員：診療科の選択については意識づけが必要と感じている。難しい部分もあるが、各医局とも情報共有してやっていきたい。

倉本委員：外科が加算の対象になってから、外科を志望する学生が増えている。見通しをもって計画していくことは大事だと考えている。どの診療科、どの専門性からも自分のところは南国市・高知市にいないと育成することが難しいというご意見がある。その診療科のデータ等を見通しながら制度改正することで外科、血液内科等の見直しにつながっている。必要性を確認しながら県が検討すると思う。

近森院長：循環器も外科等と同じように加算するなど検討いただきたい。

※ 協議事項(3)については承認された

- (4) 初期臨床研修医の令和5年度募集定員について  
資料4により事務局から説明

【質疑なし】

※ 協議事項(4)については承認された

- (5) キャリア形成卒前支援プランについて  
資料5により事務局から説明

近森院長：キャリアコーディネーターはどのような人になるのか。

事務局：学生のうちから医師になった後まで長期間、寄り添える人材で医師であることが規定されているため地域医療支援センターに担っていただくこととしている。

近森院長：医師のキャリア形成と偏在対策は相反することで大変だが、よろしく頼む。

※ 協議事項(5)については承認された

- (6) キャリア形成支援プログラムの追加・変更について  
資料6により協口委員から説明

【質疑なし】

※ 協議事項(6)については承認された

- (7) へき地診療所の指定について  
資料7により事務局から説明

【質疑なし】

※ 協議事項(7)については承認された

- (8) 過疎地域等特定診療所の認定について  
資料8により事務局から説明

野村委員：今後、無歯科医地域が出てくることも予想されているため、このようなことは積極的に実施してほしい。

※ 協議事項(8)については承認された

### 3 報告事項

- (1) 歯科医師の状況について（高知県歯科医師会）  
資料9により野村委員から説明

執印委員：高知大学の歯科の口腔外科プログラムに毎年2～3名は来ていると記憶しているが足りないということか。

野村委員：県出身の歯科医が臨床研修で高知に戻ってくるのが少なくなっており、厳しい状況。

協口委員：歯科医師の適正数は人口あたり何名くらいか。10年位前に歯科医が過剰になっていると聞いた記憶がある。

野村委員：以前は人口2,000人あたり1名と言われていたが、今はそういった指標がない。歯科医国家試験の合格率は62～63%と出口が狭められており、最近では2,000人を下回る合格者数で日本歯科医師会でも問題となっている。今回は、報告事項で現状を報告をしたが、次回からは協議事項と一緒に知恵をしばってほしい。

(2) 高知医療センター形成外科研修プログラムについて (高知医療センター)

資料 10 により小野委員から説明

倉本委員：70 万県民の県なので、2つのプログラムではなく一緒にできないのかと考えるがどうか。

小野委員：高知大学の形成外科の指導医が異動になったりと具体的話が進んでいないと聞いている。高知大学にも連携施設になっていただくなど、連携して取り組みたい。現時点では、2つのプログラムがあっても良いのではと考えている。

執印委員：一時的に形成外科の科長がいない時期があったが、1月から新科長が着任している。倉本委員のおっしゃるとおり、高知県で2つのプログラムは違和感があるので、形成の科長とも相談する。

事務局：専門研修プログラムに連動するものとして、キャリア形成プログラムの策定を検討いただきたい。また策定の際には高知大学や地域医療支援センターとも連携して取り組んでほしい。

(3) へき地の医療機関への看護師等の派遣について

資料 11 により事務局から説明

佐野委員：看護師派遣事業について派遣元はどのような病院を想定しているのか。

事務局：現時点で病院等からの要望はないので、具体の想定はない。

(4) 県内の若手医師の状況について

資料 12 により事務局が説明

【質疑なし】